

ひろば大代

NO.433

大代まちづくり
センター

H27.8.23

「第30回都市とふるさとを結ぶ交流会」を終えて

大代高山会 佐藤哲朗

第30回を記念した「都市とふるさとを結ぶ交流会」が8月14日開催されました。

午前中は大江高山きずな館の土蔵で、大代町出身者の子供さん(幼・小・中)11名で「はぐるま会」高村貢会長・蔵光良宏さんの指導により、そば粉の捏ね(水回し)・延し・切りをそれぞれ3名ずつ同時に挑戦し、1名を除き全員が初めての体験でしたが、難しいといわれる十割そばを子供たちは粘土細工のように器用にこなしました。軟らかい・硬い・細い・太い、それぞれ特徴はありましたが最後に大きな釜で茹で上げ、スタッフ・保護者計30名で試食をしました。子供たちの感想は、捏ね・

延し・切りとそれぞれ難しかったようです。試食では満足そうにお代わりをしていました。

午後からは一万円札の会の工場で渡利昭蔵会長・森守さんの指導により6名の参加者で、それぞれ葉書5枚の紙すき体験に挑戦しました。



そして18時から旧大代小学校周辺で約270人参加の恒例の大江高山神楽社中による神楽公演と盆踊りを開催し、大代の夜を楽しんで頂きました。

今年の抽選会では30回を記念し、一等〜四等に当選された19名の皆さんに、大代町の特産品贈呈の目録をお渡ししました。9月下旬〜10月上旬に新米を中心とした詰め合わせセットをお届けします。楽しみにお待ちしております。

東京石見・関西高山会を始め大代町出身の皆様のご協力により整備しました体験交流施設「大江高山きずな館」は延べ65名の宿泊者と150名の時間利用を頂きました。

又、本年7月から県社会福祉協議会の助成金「夢ファクトリー支援事業」を活用して同一敷地内の土蔵を改修したことにより多人数でのそば打ち体験やゆず胡椒製造等、幅広い分野での利用が可能となったことを報告致します。大江高山きずな館を町民の皆さんの憩いの場としては勿論、出身者の皆さんや大代町を訪れる皆さんの交流の場として活用して頂き、今後の大代町活性化に努めて参ります。



盆踊りにて

戦後七十年に寄せて ふる里の

昭和二十年八月十五日

東京石見高山会 米原光義



今から七十年前の八月十五日、場所は福光村、自給自足塩田作所。今田村長の命を受け夏休みの一カ月間、責任者として勤める事となりました。

組織は小学校の上級生と先生、男女青年団、婦人会、期間は夏休みの一カ月間三日交代で一日動員数十五名、二十名位、宿舎は福光小学校、八代村の責任者宮本さん、宿舎は醤油屋跡屋敷、作業所は共に福光の砂浜海岸、二十米四方位の塩田を作り、溝を何列も縦に掘り、海水をバケツに汲み手渡しの流れ作業、工程は省略しますが当日も朝より日差しが強く炎天下で、休息するにも日陰は無く海につきり、暑さを凌ぐ大変な作業でした。

何処となく「お昼に天皇陛下のお言葉がある」と伝わって来ましたが、砂浜でラジオが聞けるわけでもなく何の事だろうと思っておりました。

午後一時を過ぎた頃、「戦争が終わった様だ」との報に一瞬「エッ」と驚いたが責任者と云う立場上、何にも考える余裕もなく役場へ電話、役場内も混乱していたのか「後ほど連絡する」との事、待つ事長く思えたが、四時頃「引き上げて帰って来い」と云う連絡が入り、急ぎ帰り仕度、「大八車」に諸々の道具、十五日間の成果の真っ白な塩ではないが、カマスに入れて約一斗位であっただろうか。それ等に乗せて、疲れと敗戦のショックで、井田の上り坂道を力無くやつの思いで、明るいうちに役場へ帰りましたが、時間外のため、当直一人職員の方が迎えてくれました。渡寛（本渡）様のオカミさんが高齢ながら婦人会の一員とし、働いておられた姿等、走馬灯の如く思い出されます。

広島、長崎は原爆の洗礼を受け、沖縄では女子の挺身隊の集団自殺などがあるなど、戦争とは余りにも愚かで悲惨です。

被害者も加害者も戦争の無い平和な世界を共有したいものだと思っております。

シリーズその⑥

私の好きな大代の風景

「地域をみがく地域の力が

大江高山の魅力を高める」

柿田 横手新治郎

今から250万年前に噴火してできたといわれる大江高山ですが、山の草木は四季折々、年々変化します。

あの堂々とした姿は、変わることなく今日まで様々な恩恵を私たちに与えてくれています。この高山も見る場所により、随分違って見えることにお気づきの事かと思えます。このたびは2カ所を紹介いたします。

四日市の市道から、四日市集会所、宗通寺の五輪の塔を近くに見て、少し目を上げると、大江高山の中腹から頂上が見えてきます。以前は竹が生い茂っていたため見られなかったですが、四日市自治会と宗通寺墓地の管理者が、地主さんの理解を得て竹を切り払い、杉の木を伐採したために見ることが出来る風景です。





もう1カ所は、樺入口からの眺めです。荒廃農地に菜種を栽培し、見事に咲いた19年から3年間は最高の眺めでしたが、連作障害らしき現象で、花も実も採れなくなり現在は休止中です。この写真を松江市に居住しておられる先輩に送ったところ、店に展示し、ふるさと談義に使っておられる大江高山の応援者があり、有り難く感謝しています。

山の姿は変わることはありませんが、地域住民の力で、もつともつと素晴らしい眺めを造り出すために、農作物や

花などを栽培し、引き立てる活動ができたら大江高山の魅力はさらに高まるでしょう。真っ白い蕎麦の花、真っ黄色な菜種の花、赤いレンゲの花など、新しい産物を育てることで、写真家などが訪ねてくれる大江高山であってほしいです。

山のあなたの空遠く 幸いすむと人のいふ ああわれひとと尋めゆきて 涙さしぐみかへりきぬ 山のあなたのなほ遠く 幸い住むと人のいふ

カールブツセ作



退職して思うこと

四日市 谷口 浩

昨年十二月還暦を迎え、めでたく定年退職となりました。一般的には、年度末の三月での退職でしょうが、私の場合は誕生日末です。このタイミングが最悪でした。一月二月と云えば、寒いし外での作業も無いしと、室内で出来ることはコタツの守をする位です。毎日テレビを見ながらコタツに居れば、気が付かない内にコップを握っています。

こんな毎日ですので、胃の調子は悪くなるし体は痛いしで、体調を崩してしまいました。一日四十分、朝ウォーキングをしていたのですが、やはり歩くだけでは、運動不足解消とはならない様です。

四月になれば草刈りをやる様になり、やっと体調も元に戻りました。只これまで、時間の制約を受けながら仕事をしていた訳ですが、退職後は自分の好きな時間で生活出来るので、不規則になるのは間違いありません。自然と

ドリンキングの量も増えますし、血液検査の数値も上がります。

最後に、これから定年を迎える皆さん、二〜三年は仕事を続けた方が良いでしょう。趣味や目的のある人は別ですが、六十歳で仕事を辞めると間違いない私の様になります。定年後の人生設計を、予め考えておくのは重要だと思います。

菊芋の会 (糖尿病教室)



市役所健康増進課

栄養士 原田由布子

菊芋の会は、平成26年7月に、大代町の食育ボランティアさんが立ち上げた糖尿病教室です。今までに、4回集まり、糖尿病について学んだり調理実習を行ったりしています。

糖尿病の方はもちろん、血糖値が気になる方も参加していただきたいです。

次回の教室は10月上旬を予定しています。詳しい日時は、9月の「ひろば大代」でお知らせいたします。お問い合わせは市役所健康増進課

電話 (83-8152) 原田まで

俳句

あすなる句会



柿田 横手いちえ

句友との 集ひ至福や 七月尽

句友等と 集ふ部屋へと 蟬の声

八反田 森 信子

古日傘 過ぎたる日々を 回顧する
はたたがみ 急に愛犬 おちつかず

※はたたがみ 雷

椿 花田時子

帰省子を 待ちて老母の そわそわと
白き帆の 動くともなく 夏の海

下市 今田文字

芋釜の 残りし民家 夏吟行

放牧の 牛のんびりと 時鳥 ほととぎす

川上 岩田律枝

逝きし人 偲ぶや今朝の 白槿

古民家や 夏風通す 三畳間

椿 柿丸寿枝

耳遠き ことも一病 合歓の花 ねむ

恙なく 生かされ生きて 梅漬ける

大代地区社協より

四日市 竹本謙二様から

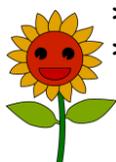
香典返しにかえ御厚志を頂き、厚くお礼申し上げます。

今月のトピックス

戦後70年を迎える7月26日、大代町では遺族有志と婦人会たんぽぽグループによる合同の戦没者の碑の掃除が行われました。



9月行事予定



- * * *
- * * * * *
- * * * * *
- ▼ 13日 (日) 大代町敬老会
- ▼ 15日 (火) さくららんぼ教室
- ▼ 23日 (水) 連合自治会